

新年度を迎えて ～屋内緑化が創る、人と都市の豊かな未来～



一般社団法人屋内緑化推進協議会
会長 前田 悟

新年度のご挨拶

会員の皆様におかれましては、健やかに新年度をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中および前年度中に皆様から賜りました格別のご支援と温かいご協力に、心より厚く御礼申し上げます。

昨年度、当協議会は一般社団法人として新たな一步を踏み出し、皆様の積極的なご参加のもと、様々な事業を順調に進めることができました。特に、第9回を迎えた「屋内緑化コンクール」や、生産者の皆様との連携を深める「全国屋内緑花需要開拓推進協議会」の創設は、業界全体を大きく盛り上げる原動力となりました。また、タイや中国・広州への海外視察を通じて得た貴重な知見を活かし、本年度は韓国へ都市屋内緑化事情の視察に加え、園芸療法やガーデン博覧会の現地調査を盛り込んだ、視察研修を計画しております。

屋内緑化の社会的使命

現在、私たちは地球規模の気候変動、とりわけ「猛暑の深刻化」という厳しい現実に直面しています。屋外での植物育成環境が一段と厳しさを増す中、都市再開発に伴う環境課題解決において、屋内緑化が果たすべき役割は飛躍的に高まっています。

同時に、人々の価値観は「ウェルビーイング（心身の健康と充実）」や「サステナビリティ（地球環境への配慮）」へと大きくシフトしています。オフィス、商業施設、そしてホームユースに至るまで、「室内に緑を」というニーズは高まり続け、植物は私たちの豊かな暮らしを支える大切な「インフラ」となりました。特に、自然とのつながりを取り入れた「バイオフィリックデザイン」による緑化は、新しいまちづくりや、社員の健康を守る「人的資本経営」に不可欠な要素として、今後ますます普及・拡大していくものと確信しております。

今年度の重点施策：人材育成とテクノロジー
こうした社会の大きな期待に応え、植物が持つ「みどりの効用」を広く社会へ浸透させるた

め、今年度は「人材育成」と「テクノロジーの活用」を重点施策に掲げ、イノベーションを強力に推進してまいります。

1. 人材育成と標準化（資格制度の推進）

日本インドア・グリーン協会と連携し、専門知識を持った人材の育成に注力いたします。その一環として、下期の9月には新たな資格制度となる「グリーンビズマスター認定試験」を実施予定です。未来を担う若い人材の育成と、業界の標準化に向けて強力に邁進してまいります。

2. テクノロジーの活用（スマートグリーン）

LED照明技術やITを活用した自動灌水（水やり）管理技術など、最先端のスマートグリーン技術を応用するための研究調査を進め、その普及を加速させます。これにより、厳しい環境下でも植物を安定して栽培できる持続可能な環境づくりを目指します。

GREEN×EXPO 2027に向けた決意

そして、私たちの大きなマイルストーンとなる「2027年横浜国際園芸博覧会（GREEN X

EXPO2027）」への準備を本格化させてまいります。

当協議会は、この博覧会を「みどりの効用」が広く国民の皆様理解され、深く浸透していくための最大の好機と捉えています。日本の高度な屋内緑化の魅力を国内にとどまらず世界に向けて強力に発信し、博覧会を大成功へと導くため、業界を挙げて情報発信を盛り上げていく決意です。

当協議会は、「緑を通して、人々の暮らしと社会をもっと豊かで幸せなものにする」という目標に向け、役員・会員一同、一丸となって努力してまいります。この新しい時代を切り拓き、共に歩んでくださる熱意ある企業・団体・個人の皆様の新規ご入会を心よりお待ちしております。周囲の方々にお声掛けをしていただければ幸いです。

●
本年度も皆様の変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様にとって公私ともに実り多き素晴らしい一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

2025年度 通常総会、コンクールコンクール発表会 農水補助事業など新たな事業展開



一般社団法人屋内緑化推進協議会(会員92名)は、一般社団法人となってから初めての2025年度通常総会及び屋内コンクール2025表彰式、講演会を7月9日、東京都江東区にある江東区文化センターレクホールにおいて開催した。

総会では、会長の前田悟さん(株)サンスイ代表取締役会長)が議長となり、2024年度事業報告・収支決算、2025年度事業計画・収支予算を原案どおり可決し、顧問の佐分利応貴さんを理事に選任した。

審議に先立ち前田悟さんが挨拶し「21世紀は『環境の世紀』ともいわれ、人類社会の持続可能性のためには環境を味方につけることが求められている。私たちが10年間活動してきた『緑の効用』は、科学的にもその効用が明らかになり、緑の役割は国家レベルでも注目されるようになった。昨年度は屋内緑化コンクールをはじめ関西地区での現地研修会や関東地区の若手によるグリーンサミット、海外ではシンガポールガーデンシティ視察、東京ドーム2024世界らん展への出展など多岐にわたる活動をした。本年度も海外視察をはじめ、各地での勉強会、屋内緑化コンクールに加え、農水省の補助事業、インドアグリーン協会とのグリーンマスター資格制度の取り組みなど充実させていきます。次の10年に向け国や研究機関との連携を強化し異分野を含めた新規会員増強と組織運営体制の充実を図っていききたい」旨のべた。

屋内緑化コンクール2025表彰式では、各賞の授与と受賞者によるプレゼンテーションが行われた。コンクールは作品部門63件、緑の取り組み部門18件と昨年を上回る81点(昨年61点)の応募から、作品部門6点、取り組み部門5点が受賞した。

講演では、特別講演として半場祐子さん(京都工芸繊維大学応用微生物学系教授バイオベースマテリアル専攻教授)が「観葉植物の光に対する順化レベルを数値化する～光合成と葉緑素量を用いて～」、町田ひろ子アカデミー代表取締役・町田ひろ子さんは「神経美学とインテリア」について、屋内緑化推進協議会顧問の佐分利応貴さんが「LEDが拓く緑の革命～屋内ガーデニングで家庭や職場を癒しの森に～」をテーマに講演した。

(グリーン情報 山川正浩)

屋内緑化推進会議 第11回コンクール受賞作品

作品部門

農林水産省農産局長賞

ITOKI DESIGN HOUSE
【(株)イトーキ、(株)グリーンディスプレイ】

公益社団法人日本家庭園芸普及協会会長賞
ウエルカム&ブレイクスルーガーデン
【NECフレンドリースタフ(株)、グリーンコンチネンタル(株)】

一般社団法人屋内緑化推進協議会会長賞
阪急阪神不動産 ジオゲストサロン 新宿(インドアレインフォレスト)
【阪急阪神不動産(株)、(株)環境計画研究所、(株)緑演舎】

一般社団法人日本ハンギングバスケット協会理事長賞
みどりによるアップデート空間
【大和リース(株)東京本店】

一般社団法人日本インドア・グリーン協会理事長賞
13種の「木」と「樹」と暮らすワークラウンジ
【(株)パーク・コーポレーションparkERs、東急不動産(株)、(株)東京チェーンズ】

一般社団法人屋内緑化推進協議会奨励賞
緑が支えるストレス低減オフィス
【(株)さらぼし銀行、(株)日比谷花壇】

緑の取組み部門

一般社団法人屋内緑化推進協議会会長賞
庭のないマンションで仲間と一緒に園芸を!
【タテノワ倶楽部神戸】

一般社団法人日本ハンギングバスケット協会理事長賞
明治安田生命新東陽町ビルでの「循環型生産緑化」の展開
【明治安田ビジネスプラス(株)、明治安田生命保険相互会社】

公益社団法人日本家庭園芸普及協会会長賞
一鉢の喜びから始まる、植物との未来
【(株)グッディ】

一般社団法人日本インドア・グリーン協会理事長賞
おうち植物園PJ
—植物と光環境の関係可視化による団地緑化の試み—
【手づくり建築工作舎】

一般社団法人屋内緑化推進協議会奨励賞
森とつながるワークプレイス・R&D拠点
【(株)パーク・コーポレーションparkERs、中央日本土地建物(株)】



●コンクール受賞者と屋内緑化推進協議会役員の皆さん

農林水産省農産局長賞

ITOKI DESIGN HOUSE

株式会社イトーキ
株式会社グリーンディスプレイ

■ 受賞理由

近年働く場所での人的資本経営の重要性が高まる中、働く人のエンゲージメントを高める、出社したくなるオフィスが求められている。オフィス家具メーカーの本社ビルであり、顧客への提案につながる、活動ごとに場所を選択できるABW (Activity Based Working) の働き方を実践し、集中できるような空間デザイン、視線を変える、仕切る、つなぐ、を家具＋グリーンにより実現している。従来の賞鉢による観葉植物配置ではなく、植物の生長にも配慮した外光の取り入れ、送風ファンによる風、密度を調整することで抜け感をつくる等、設計段階から工夫を行っている。植物生育を確保するため、排水性と保水性に優れた土壌、搬入前からの照度馴化等万膳の処置を行っているの緑化であり、加えて従業員による管理とそれによる満足度の調査も行われている。

この考え方、手法は今後に向けた緑化提案を実践している模範的な事例と捉える事ができ、農林水産省農産局長賞に選ばれました。

■ 作品の概要

明日の「働く」をデザインする、イトーキの本社オフィスが、2024年11月7日

ITOKI DESIGN HOUSEとしてリニューアルしました。働く場所での人的資本経営の重要性が高まる中、働く人のエンゲージメントを高める、出社したくなるオフィスが求められています。イトーキでは、働く場に自然の中の心地よさを表現するため、窓からの外光を最大限取り入れ、グリーンと共に過ごす空間、グリーンのある風景をデザインしています。また活動ごとに場所を選択できるABW (Activity Based Working) の働き方を実践し、それぞれの活動に集中できるような空間デザイン、視線を変える、仕切る、つなぐ、を家具＋グリーンにより実現しています。

単なる観葉植物ではなく屋内でのグリーンの成長にも配慮した、外光を取り入れ、天井に取り付けた送風ファンにより枝葉に風を送り、密度を調整することで抜け感をつくる、設計段階から育成の工夫を行っています。

さらに、この場をお客様にご見学いただき、オフィスでの緑化の必要性を提案しています。

木陰の下で働くような心地よさを感じる、シンボルツリーや背景となるグリーンを配置



家具との組み合わせによる空間の仕切り



無窓居室の窓から屋外の風景として



リラックスする場の日差し対策としても



手軽に季節を感じる切り枝のアレンジを導入



緑化システム

■ 使用植栽の品質と順化への取り組み

当社では、使用する植栽を生産段階からこだわり、排水性と保水性に優れた土壌環境で育成することで、健全な根張りや耐久性のある個体を確保しています。また、屋内設置に向けた準備として、出荷前に照度を落とした温室にて数週間順化を実施。これにより、設置直後のストレスや状態悪化を大幅に軽減し、屋内環境へのスムーズな適応を可能にしています。



沖縄の生産者と直接やり取り

■ 設置時の環境評価と対応

設置にあたっては、設置予定場所の照度を事前に計測し、その結果に基づいて適切な種類の植栽を選定・配置しています。さらに、通気性と見た目のバランスを両立させるために、設置後に枝葉の密度を剪定により調整。これにより、空間との調和と植物の健全性を両立させています。



配置シミュレーションと順化ツリーや背景となるグリーンを

■ 維持管理と環境への対応力

設置後の管理では、週1回の定期メンテナンスを実施。気温や湿度の変化に応じて灌水量を細かく調整し、屋内環境でも植物が最適な状態を保てるよう配慮しています。



メンテナンスのクリーニングツリーや背景となるグリーンを

■ 実績と成果

これらの取り組みにより、2024年11月の設置以降、ほぼ全ての植栽が納品当初のまま維持されており、入れ替えを行うことなく良好な状態での管理が継続できています。短期間での屋内環境への順化を実現した事例として、安定的かつ持続可能な屋内緑化のモデルとなっています。なお、社内の従業員を対象とした年1回実施しているエンゲージメント調査のポイントの向上にも大きく寄与しています。

エンゲージメントの
サーベイによる文化力

（事例）
+10%

年1回の従業員満足度調査



(公社)日本家庭園芸普及協会会長賞

ウエルカム& ブレイクスルーガーデン

NECフレンドリースタフ株式会社
リーコンチネンタル株式会社

■受賞理由

グループ会社のオフィスキューピング&オフィスグリーンサービスを行う企業としてオフィス緑化に取り組んだ事例である。屋内緑化への期待として、①自然の癒し効果、②落ち着いた向上、③ストレスや不安の軽減、④ポジティブなエネルギーと雰囲気、を取り上げこれらの期待に応えるためバイオフィリックデザインを意識し、在宅でも業務できる状況下、会社に来て少しでも気持ちよく仕事ができる、緑豊かで、賑わいのあるワークスペースをめざした。この屋内緑化の構築と並行し、弱った観葉植物を自社で再生させる取り組みをスタートさせている。自社敷地内にガラス温室を建て、育成環境(温度、湿度、風)を管理制御する一方、障がいを持った従業員が温室で愛情をもって散水、葉水等の手入れを開始した。園芸の普及に大きく寄与する事例として、日本家庭園芸普及協会会長賞に選ばれました。

■作品の概要

オフィスリニューアルフロアに対し、特例子会社の弊社が初めて挑戦したワークスペースの屋内緑化となります。取り組みに先立ち実施したお客様サーベイの結果とし、屋内緑化への期待は次のようなものでした。

- ① 自然の癒し効果
- ② 落ち着いた向上
- ③ ストレスや不安の軽減
- ④ ポジティブなエネルギーと雰囲気

これらの期待に応えるためバイオフィリックデザインを意識し、在宅でも業務できる状況下、会社に来て少しでも気持ちよく仕事ができる、緑豊かで、賑わいのあるワークスペースをめざしました。

本屋内緑化は3つのパートから構成されます。

- ①“ウエルカムガーデン”:エレベーターホールからワークスペースへの入口で円形の什器植栽の豊かな緑で働く人々をやさしく迎え入れます。
- ②“床置き植物”:入口からワークスペースに導く動線や窓際にも緑を配置しました。
- ③“ブレイクスルーガーデン”:高低差のある3つの什器植栽、吊り植物、床置き植物で緑に囲まれた雰囲気の中で、ある時は一人で業務に集中、またある時は複数メンバーでアイデアを出し合い、新たな価値を生み出すようなビジネス上のポジティブな賑わいの創出を狙っています。

① “ウエルカムガーデン”

高さ1mの円形カウンターに観葉植物の緑だけでなく、季節感を演出する目的で冬には柑橘類(柚子、金柑)の設置に挑戦しました。その後、自然の癒し効果を狙って胡蝶蘭ミディを配置し彩りに変化をつけております。

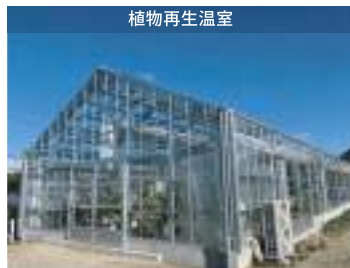


② “ブレイクスルーガーデン”

高低差のある3つの什器植栽や床置き観葉植物の直近で緑に囲まれて仕事をすることができます。さらに窓際のブラインドを上げると屋外の河川周辺の自然の緑とのコントラストを楽しむことができます。



この屋内緑化の構築と並行し、弱ってしまった観葉植物を自社で再生させる取り組みを2024年12月からスタートさせました。専門家の指導を受け自社敷地内にガラス温室を建て、育成環境(温度、湿度、風)を管理制御する一方、障がいを持った従業員が温室で愛情をもって散水、葉水等の手入れを開始しました。高い確率で植物の再生に成功しており、自社内の植物再生サプライチェーンと位置づけています。これにより植物を大切にコストミニマムな屋内緑化を実現するとともに、弊社の従業員に緑を育てる喜び、植物再生の成功体験を自身の自信につなげ、仕事にやりがいを感じてもらうことを目指しています。



【観葉植物再生事例】

3か月育成

- 鉢から株を抜いて古い根を切除
- 土を入れ替えて植え直し
- 光量十分な半日蔭で養成
- 適切なタイミングで施肥



(一社)屋内緑化推進協議会会長賞

indoor rainforest

(インドア レインフォレスト)

阪急阪神不動産 株式会社
株式会社 環境計画研究所
株式会社 緑演舎

■受賞理由

ブランドの新築分譲マンションを案内する常設のマンションギャラリーの事例である。まるで森林の中にいるような癒しのひとときを、リラックスしてお過ごせる環境をデザインした。「植栽とデジタルの調和」を目指し、ライブラリーフォレストでは透明なスクリーンを使用し、映像越しに植栽を見られる仕掛けを設置した。ナレッジゾーンではタッチ式の4面サイネージを活用したデジタル植栽アートと、実際の植栽を融合させた空間を実現した。森の空気感を体感できるよう、ミストによる演出を取り入れ、風の揺らぎや湿度を感じられることで、五感で自然を感じられる空間を創出した。植栽コンセプトである「indoor rainforest」を表現するため、人工的に整えられた植栽ではなく、力強く育った自然樹形の植木で、生命力を感じさせる構成とした。新たな緑の見せ方に工夫を凝らしており、屋内緑化推進協議会の向かう方向を示唆するものとして会長賞に選ばれました。

■作品の概要

ジオゲストサロン新宿は、阪急阪神不動産が展開する住まいのブランド<ジオ>の新築分譲マンションをご案内する常設のマンションギャラリーです。

エントランスを抜けると、豊かな緑が広がり、訪れる方々を温かく迎えます。この空間は、木々に包み込まれるような自然本来の生命力を感じられるデザインを追求し、視点を変えるたびに異なる景色を楽しめるよう設計しております。植栽の配置や空間のつながりに細やかな工夫を凝らし、まるで森林の中にいるような癒しのひとときをリラックスしてお過ごしいただける環境をデザインしました。

また、「植栽とデジタルの調和」(バイオフィリックデザインとモニター等の電子機器との調和)を目指し、最新技術を活用した空間デザインも取り入れています。例えば、ライブラリーフォレストでは透明なスクリーンを使用し、映像越しに植栽をご覧いただける仕掛けを設置。さらにナレッジゾーンでは、タッチ式の4面サイネージを活用したデジタル植栽アートと、実際の植栽を融合させた空間を実現しました。従来では難しいとされていた「植栽とデジタルの調和」を追求し、自然とデジタルが一体となった新しい癒しの空間をお届けします。

ソファベンチを囲む曲線的な植栽帯をレイヤー状に配置することで、豊かな緑を演出しました。ベンチに腰を掛けると、森の中のように木々に包み込まれ、自然本来の生命力が息づく風景を切り取ったような空間を創出し、訪れる人々が自然の温もりと心地よさを感じられる空間づくりを目指しました。また、森の空気感を体感できるよう、ミストによる演出を取り入れ、風の揺らぎや湿度を感じられる空間とすることで、五感で自然を感じられる空間を創出しました。

木々に包み込まれ、さらに景石・砂利・流木などの自然素材も使用し、屋内にいながらも本物の自然に触れているような空間構成としました。単なる装飾にとどまらず、植物が育つ環境の再現にこだわった植栽計画としています。



個性的な様々な植栽をレイアウト



【ライブラリーフォレスト】
透明スクリーン越しのグリーン演出



【ナレッジゾーン】
デジタル植栽アートと植栽空間



ミストによる幻想的な演出をプラス

緑化システム

1. 植栽コンセプトである「indoor rainforest」を表現するにあたり、人工的に整えられた植栽ではなく、力強く育った自然樹形の植木を選定し、生命力を感じさせる構成としました。
2. コンセプトに合わせてミストを使った演出も導入し、幻想的な雰囲気を創出するだけでなく、植物の生育に欠かせない湿度も確保し、機能性と美しさを兼ね備えた設計としております。
3. 流木・砂利・景石などの多様な自然素材を組み合わせ、立体的でリアルな「rainforest」空間を表現しました。また、砂利の濡れ加工や流木にブリザーブドモスを施す細かな演出など、素材選びとディテールの質感や什器の形状や照明計画にも徹底的にこだわり、自然の風景を切り取ったかのような臨場感を生み出し、屋内でありながらも本質的な自然美を表現しました。



モデルルームと併設したグリーン演出



背面のミラー効果により植栽空間に広がり表現

(一社)日本ハンギングバスケット協会理事長賞

みどりによる アップデート空間

大和リース株式会社 東京本店

■受賞理由

食堂エリアを社員同士のコミュニケーションやグループ間のつながりが芽生える「I/O-BASE~インプット/アウトプットの場~」とした事例である。プレゼンテーション&ワークショップエリア、グループ会社間の繋がりを創出するインフォメーションエリアを整備し、様々な情報の「発信」と出会い、気づきという偶発的な「受信」が生まれる場へとアップデートした。従業員でディスカッションし、コンセプトを決定し、飲食エリアは利用者との視線が合わない工夫を、プレゼンテーション&ワークショップエリアは緑量溢れる空間で「リラックス」と「コミュニティの創出」両方の側面を叶える空間とした。衛生面にも十分に注意して、人の手に触れやすい箇所はフェイクグリーンを活用しつつ、植栽帯には生花も使用している。天井下にはハンギングを配置しており、日本ハンギングバスケット協会理事長賞に選ばれました。

■作品の概要

大和ハウス工業株式会社東京本店の食堂エリアが、社員同士のコミュニケーションやグループ間のつながりが芽生える「I/O-BASE~インプット/アウトプットの場~」へと生まれ変わりました。スクリーンを設置したプレゼンテーション&ワークショップエリア、グループ会社間の繋がりを創出するインフォメーションエリアを整備し、様々な情報の「発信」と出会い、気づきという偶発的な「受信」が生まれる場へとアップデートされました。どこにいてもみどりを感じられるよう空間全体に植物を配置し、ゆっくりと気分転換ができ、コミュニケーションを促進する空間としております。



【コンセプトに合わせた緑化空間】

食堂スペースをリニューアルするにあたり、従業員でディスカッションし、コンセプトを決定しました。I/O-BASEとして生まれ変わるための要素として植物の配置にもこだわりが詰まっており、使用する席によって楽しめる植物が異なります。飲食エリアは対面の利用者との視線が合わないよう小ぶりの植物で自然な区切りを導入し、プレゼンテーション&ワークショップエリアは緑量溢れる空間で「リラックス」と「コミュニティの創出」両方の側面を叶える空間へと生まれ変わりました。

【衛生面に考慮した植物の配置】

楽しく食事をとれる空間として、衛生面にも十分に注意して植物を設置しました。人の手に触れやすい箇所はフェイクグリーンを活用しつつ、緑量が多く自然を感じられるまとまりのある植栽帯には生花を使用しております。多様な方が使用するオフィスの食堂だからこそ、自然とのバランスを考えたリラックスできる空間となっております。



(一社)日本インドア・グリーン協会理事長賞

13種の「木」と「樹」と暮らす ワークラウンジ

株式会社パーク・コーポレーション parkERs
東急不動産株式会社

■受賞理由

木(MOKU)をテーマにした、新築賃貸マンションで、木造RCハイブリッド構造建築の事例である。森林大国と呼ばれる日本で、昔からの木と人の身近な関係性が蘇るような空間を目指している。「温もりの木」「気づきの林」「育みの森」の3つのゾーニングに分かれ、奥に進むにつれて森の中に入っていきように緑に包まれる空間になっている。木材・間伐材の調達には、東京の森で林業を営むパートナー会社と協力して実現した。樹齢165年の“ご神木”と呼ばれていたスギのテーブル天板、切り株の萌芽を思わせる木の特殊プランターを空間の中に散りばめている。どのエリアでも樹木の使用部分や産地等、木にまつわるエピソードを視覚的に伝えるサインを間伐材で製作し、設置している。ワークラウンジに計18本の樹木の苗(ヤブツバキ、シロダモ、ホンニッケイ)を植えている。多種の植物、木材を使用して屋内に森を出現させており、日本インドアグリーン協会理事長賞に選ばれました。

■作品の概要

木(MOKU)をテーマにした、東急不動産株式会社の新築賃貸マンションとなるコンフォリア芝浦MOKU。サステナブルな素材である木材をRC構造の中に組み込んだ、木造RCハイブリッド構造建築です。

森林大国と呼ばれる日本で、昔からわたしたちの身近にあった木の存在。かつての木と人の身近な関係性が蘇るような空間を目指し、樹木や下草、木材、季節の花などをふんだんに取り入れワークラウンジのデザインを計画しました。「温もりの木」「気づきの林」「育みの森」の3つのゾーニングに分かれ、奥に進むにつれて森の中に入っていきように緑に包まれる空間になっています。木材・間伐材の調達は、東京の森で林業を営むパートナー会社と協力することで、この空間ならではのユニークな表現を実現しました。

温かみのある木家具や生き生きとした植物と日常的に触れあうことで自然への感受性を高め、五感を育みながら住まうことができる心地よいラウンジ空間となりました。



生きた植物と、成長し伐採された木材と一緒にコーディネートすることで、一連のストーリーを伝え相乗効果となるよう意識しました。荒々しくも温かみのある樹皮の表面、雨の日も風の日も木の重みを受け止めてゆがんだ根元など、さまざまな木の表情に出会うことができます。「温もりの木」のエリアでは、樹齢165年の“ご神木”と呼ばれていたスギを、木挽き職人の技術により二枚のテーブル天板にしました。「気づきの林」エリアでは、切り株の萌芽を思わせる木を切り出した特殊プランターを空間の中に散りばめています。「育みの森」では、森で見られる木々の連なりを意識して植栽計画を行いました。どのエリアでも樹木の使用部分や産地等、木にまつわるエピソードを視覚的に伝えるサインを間伐材で製作し、設置しています。☒ またワークラウンジに計18本の樹木の苗(ヤブツバキ、シロダモ、ホンニッケイ)を植えました。parkERsが森林再生に協力する湘南国際村めぐりの森にも同じ数だけ植樹をすることで、この場所に住むこと自体が未来の森づくりに貢献する仕組みを導入しました。

森の恵みをふんだんに取り入れたラウンジ空間でその心地よさを体感し、植物や木材を好きになってもらうきっかけをつくるのが、森の未来につながることを願っています。



(一社)屋内緑化推進協議会奨励賞

緑が支える ストレス軽減オフィス

株式会社きらぼし銀行
株式会社日比谷花壇

■受賞理由

銀行の「第2の本店」であり、地域社会との共生をテーマとして掲げている。銀行と市、市観光協会が連携して市の魅力を発信する場であり、施設内には多目的ホールやラウンジを設け「持続可能性」と「快適性」を両立させた職場環境の創造を目指している。ZEB Ready認証やCASBEEウェルネスオフィスにおいてAランクを取得するなど、エネルギー消費量を大幅に抑制し、環境負荷を低減しながら働く人々が心身ともに健康に過ごせる空間づくりを実現している。環境心理学およびバイオフィリックデザインの観点から、屋内緑化によるストレス軽減を図る空間設計を行っている。使用する植物は、衛生面とメンテナンス面を考慮しハイドロカルチャーを採用し、土埃やカビの発生を抑制している。植物育成用LEDライトを導入し、植物が“生きて育つ”ための空間を技術的に支えている。

バイオフィリックデザイン、植物育成用LEDランプの使用等会の向かう方向に沿っており、屋内緑化推進協議会奨励賞に選ばれました。

■作品の概要

本計画は、某銀行の「第2の本店」として位置付けられた相模原市内の施設であり、地域社会との共生をテーマとして掲げています。相模原市観光協会が入居し、同行と相模原市、同協会が連携して市の魅力を発信する場として2024年に新たに誕生しました。施設内には多目的ホールやラウンジを設けており「持続可能性」と「快適性」を両立させた職場環境の創造を目指しました。ZEB Ready認証を取得した省エネルギー設計により、エネルギー消費量を大幅に抑制。環境負荷を低減しながら働く人々が心身ともに健康に過ごせる空間づくりを実現しています。

また、全てのフロアには植物で囲われたマグネットスペースを設け、自然の癒しを体感できる場を取り入れることで、従業員の健康維持やウェルビーイングをサポート。さらに、快適性や健康への配慮が評価され、CASBEEウェルネスオフィスにおいてAランクを取得するなど、質の高い職場環境づくりが推進されており、職場機能を超えて、地域全体に価値をもたらす施設となっています。



植物育成用LEDライトは眩しさや圧迫感を与えることなく、他の照明器具とも意匠的に美しく調和している

●屋内緑化とストレス軽減へのアプローチ

本施設では、環境心理学およびバイオフィリックデザインの観点から、屋内緑化によるストレス軽減を図る空間設計を行いました。各フロア配置したマグネットスペースにより、交感神経の過剰な活性を抑え、副交感神経の働きを促進し、心理的な安定をもたらす環境を目指しています。

使用する植物は、衛生面とメンテナンス面を考慮してすべてハイドロカルチャーを採用。土埃やカビの発生を抑制し、心理的な安心感を提供するだけでなく、水位計を活用することによって水分ストレスを低減し、メンテナンスの効率化にも配慮しました。これにより、人だけでなく植物にとってもストレスの少ない、安定した生育環境が整えられています。

さらに、ラウンジやエントランスといった人の滞留が多い空間には、十分な緑量を確保した上で植物が配置される各エリアで必要な光量が確保できるよう、照度分布図を用いて事前に検証。自然光が届きにくい屋内空間でも植物の生長に必要な光合成が十分に行えるよう、植物育成用LEDライトを導入し、光合成に最適な波長(主に赤系・紫系の可視光)を含むスペクトル設計の下、植物の光飽和点や日長要件に配慮し、植物が“生きて育つ”ための空間を技術的に支えています。視覚的な快適性にも配慮し、植物の生長と人の心理的癒しが共存する空間づくりを目指しました。植物育成用LEDライトは自然な光の演出として眩しさや圧迫感を与えることなく、他の照明とも意匠的に調和させています。

また、相模原市緑区内で採掘された景石を意匠に取り入れることで、地域性を反映させつつこれらの取り組みにより、空間の美しさだけでなく、植物の生命力そのものをオフィスの活力として取り込む、持続可能で快適な緑化環境を実現しました。



照度分布図から植物育成用LEDライトの規格と数量を選定

材料検査及び植栽の配置シミュレーション

●地域との共生とストレス軽減の社会的貢献

本施設は、業務空間としての機能にとどまらず、地域スペースの有効活用を図る銀行兼複合施設としての役割を担い、社会的価値の創出とコミュニティの活性化に貢献しています。特に、事業主と綿密な検討を重ねたマグネットスペースは、バイオフィリックデザインの考え方を基に、視覚効果と心理的快適性の両面から検討して、ストレスホルモンであるコルチゾールの低減が期待できる空間構成を目指し、最適な緑量バランスと自然に近い空間づくりを実現しました。

その上で、植物が健康に育ち続ける環境を維持するために、光・水・空気の3要素に配慮した緑化技術を積極的に導入。維持管理の工夫を凝らすことで、常に健やかな緑が空間に息づくデザインとしています。近年の研究でも、緑環境と心理的安定や生産性向上の関連性が報告されており、本施設の計画もこれらの知見に基づいて構成されています。従来のオフィスの枠を超え、人・自然・地域が調和する空間づくりのモデルケースとして、今後のオフィス設計の1つの指標となることを願っています。

(一社)屋内緑化推進協議会会長賞

庭のないマンションで 仲間と一緒に園芸を!

タテニワ倶楽部神戸

■受賞理由

同じマンションに住む有志9名で活動。メンバーそれぞれが自宅で育てている植物「タテニワ」を持ち寄り、エントランスなどの共有部に飾っている。各タテニワは個人所有のため、各自が責任と愛情をもって管理している。市販のプラスチック容器に数か所穴を開け、側面に植物(主に観葉植物)を植え込んだもので、並べて積み重ねて飾ることができる。当初はエントランスホールのみでしたが、現在はエントランスの薄型本棚や噴水跡地、キッズルーム前のベランダにも飾っている。時々開催するタテニワ・ワークショップには外部からも多数参加しておりアンケートでは、6割の方が区役所や図書館などの地域の公共施設をタテニワで飾るグループ活動に参加したいと回答された。マンションや会社、学校、地域などで、緩くつながるコミュニティツールとして有効だと考えている。

同じマンションに住む人が始めたこの活動は、高く評価すべき事例として屋内緑化推進協議会会長賞に選ばれました。

■取組の概要

同じマンションに住む有志9名で活動。メンバーそれぞれが自宅で育てている『タテニワ』を月に1度皆で持ち寄り、エントランスなどの共有部に飾っています。土の代わりに保水性の高い木質ファイバーを使用しているため、水遣りが月1回程度で済むのでこの活動が可能です。各タテニワは個人所有のため、共有部に飾っている間も各自が責任と愛情をもって管理しています。一般的な園芸グループ活動と異なり、水遣り当番がなく、皆で集まった作業が月1回30~60分程度のため、メンバーは緩くつながって活動しています。『コミュニティは必要だけど、面倒なご近所付き合いは避けたい』と考えている住人が多い都会のマンションに最適なグループ活動だと実感しています。

当初はエントランスホールにある花台にだけ飾っていましたが、現在はエントランス(市販の薄型本棚使用)や諸事情により水が止められた噴水跡地にもタテニワを飾っています。キッズルーム前のベランダにはキッズガーデンを設置(不要になったミルクボックスを使用)。ここは陽が当たるので花やイチゴ、レタスなどを育てています。子育て世代の応援になればと思って始めましたが、住人同士の交流も生まれているようです。タテニワがあることで共有部がおしゃれになったと住人にも好評のようですし、作業していると通りがかった住人の方に『いつもありがとう』とお声掛け頂くことも多く、コミュニティが醸成されているように感じます。このことが、防犯、災害時の共助、子供や高齢者の見守りに繋がり、それによりマンションの資産価値もアップするのではないかと期待しています。



エントランスホール・花台



噴水跡地



キッズガーデン



タテニワ WS

取組のシステム・具体的活動内容

『タテニワ』というのは市販のプラスチック容器に数か所穴を開け、側面に植物(主に観葉植物)を植え込んだもの。並べて積み重ねて飾ることができるので、参加者の人数に関係なく、オシャレに飾ることができます。土の代わりに保水性の高い木質ファイバーを使っているため水遣りは月1回。コロナ禍中、他者と繋がる重要性をひしひしと感じているとき、タテニワに出会いました。タテニワなら他の住人とともにマンション共有部を飾るグループ活動ができると直感。デモンストレーション展示、タテニワ講習会を経て、2022年6月、有志とともにタテニワ倶楽部を発足しました。メンバーはそれぞれの自宅でタテニワを5~10個育てています。月に1度皆で持ち寄り、共有部のタテニワと入れ替えます。葉の形や色のバランスを考え、相談しながらレイアウトを決めます。飾っている一カ月の間に水枯れや弱ったタテニワは、その所有者が自宅にある他のタテニワと交換します。タテニワは個人所有のため、共有部に飾っていない期間は自宅に飾って楽しむことができます。地域のガーデンショーに出展することで得た助成金やメンバーの不用品を集めてフリマに参加するなどして得た収入を備品や苗代などに充てています。



メンバーの自宅



地域のガーデンショー

●その他 土の代わりに使用している木質ファイバーは保水性が高いが、いったん乾くと水を弾きます。このため、初めてファイバーを使う多くの方が水遣りに戸惑われます。タテニワは個人では長続きしないことが多いのも実情です。しかし、グループで活動することにより、情報共有ができ、少しばかりのライバル心も働くためか、皆、数カ月後には上手く育てられるようになります。なにより、共有部を飾るという使命感・やりがいによって継続できるようです。また、時々開催するタテニワ・ワークショップには外部からの希望者も多数参加されます(一戸建て居住者も多い)。この参加者にアンケートを実施したところ、6割の方が区役所や図書館などの地域の公共施設をタテニワで飾るグループ活動に参加したいと回答されました。タテニワは、マンションや会社、学校、都市部の地域などで、緩くつながるコミュニティを作るツールとして極めて有効だと考えています。

(一社)日本ハンギングバスケット協会理事長賞

「循環型生産緑化」の展開

明治安田ビジネスプラス株式会社
明治安田生命保険相互会社

■受賞理由

サステナビリティ経営の一環として、自社内での循環型生産緑化に取り組むことを目的に、障がいや有する職員が、育苗作業の担い手となっている。育苗後の植物は、「未来世代応援活動」の一環として、会社が協賛しているフットボールツアーに参加する小学生への配付や、職員のSDGsへの意識醸成を目的としたオフィス緑化に活用している。循環型生産緑化の展開により、従業員は日常的に豊かな緑に触れる機会を得ることができ、従業員に癒しを提供し、ストレスの軽減と心身のリフレッシュを促進し、結果として従業員の健康とウェルビーイングが向上している。

新たな緑化の生産・利用形態としてこれからの緑化の方向性を示すものと評価され、ハンギングバスケット協会理事長賞に選ばれました。

■作品の概要

明治安田生命保険相互会社(執行役社長 永島 英器)は、株式会社プラネット(代表取締役 大林 修一)と協働し、明治安田生命新東陽町ビルにて、「循環型生産緑化(注1)」を展開しました。

本プロジェクトは、サステナビリティ経営の一環として、自社内での循環型生産緑化に取り組むことを目的に、明治安田ビジネスプラス株式会社の障がいや有する職員(以下、メンバー)が、育苗作業の担い手となっています。育苗後の植物は、「未来世代応援活動」(注2)の一環として、昨年度より当社が協賛している「Jリーグ×小野伸二 スマイルフットボールツアー for a Sustainable Future supported by 明治安田」(注3)に参加する小学生への配付や、職員のSDGsへの意識醸成を目的としたオフィス緑化への活用を進めています。

(注1) 持続可能な社会をめざして、資源の循環利用と環境保全を両立させるための植物の生産活動と緑化活動を組み合わせた概念

(注2) 当社は、こどもの健全育成や環境保全など、持続可能で希望に満ちた豊かな社会づくりに貢献する活動を「未来世代応援活動」として推進しています。

(注3) Jスマイルフットボールツアーでは、サッカー教室とあわせて、サッカーを通して気候変動に対するアクションの重要性を伝えることを目的に「サステナトーク」を実施しており、そのなかで、苗木を配付。



【壁面緑化】

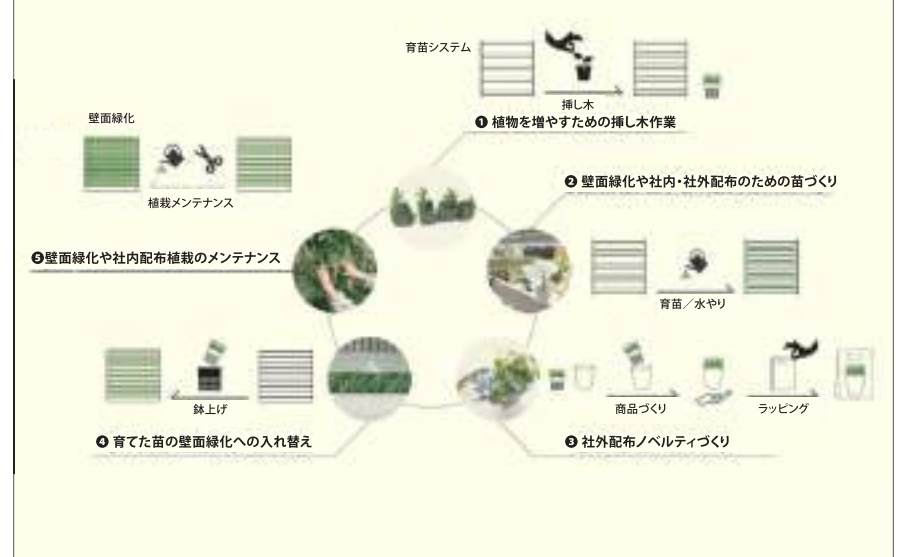


【育苗システム】

明治安田ビジネスプラス株式会社の障がいや有する職員が以下の作業を実施します。

- ① 植物を増やすための挿し木作業
- ② 壁面緑化や社内・社外配布のための苗づくり
- ③ 社外配布ノベルティづくり
- ④ 育てた苗の壁面緑化への入れ替え
- ⑤ 壁面緑化や社内配布植栽のメンテナンス

【「循環型生産緑化」の展開について】



具体的活動内容

明治安田生命新東陽町ビルにおける循環型生産緑化の展開により、従業員は日常的に豊かな緑に触れる機会を得ることができます。この取組みは、従業員に癒しを提供し、ストレスの軽減と心身のリフレッシュを促進します。結果として、従業員の健康とウェルビーイングが向上します。さらに、明治安田ビジネスプラス株式会社のメンバーが「みどりの仕事」に従事することで、彼らにとって生きがいとやりがいのある職場環境を提供します。この取組みは、メンバーが自らの能力を最大限に発揮し、生き生きと働くことができる環境を整えることを目指しています。このように、循環型生産緑化の実践は、従業員の健康促進と障がいや有する職員の生きがい創出を両立させる素晴らしい取組みです。



【挿し木作業の様子】



【Jスマイルフットボールツアーで配布している苗木】

(公社)日本家庭園芸普及協会会長賞

一鉢の喜びから始まる、 植物との未来

株式会社グッディ

■受賞理由

近年、植物がもたらす「癒し効果」や「ストレス軽減効果」への関心が高まっており、「一鉢の喜びが、緑豊かな未来を育てる」——これが、私たちの挑戦の第一歩ととらえ活動を行っている。ワークショップは取り組みやすく、多くの方に関心を持っていただきやすい「花(パンジー・ビオラ)」と、観葉植物を含む「グリーン」に興味を広げていただく仕組みづくりを意識して実施した。市民参加型無料ワークショップとして植物を「学ぶ」体験、「知る」機会を提供し、「市民が主体となって植物とふれあい、育てるきっかけをつくる」ことを目的に開催した。SDGsが掲げる「すべての人に健康と福祉を(目標3)」、「住み続けられるまちづくりを(目標11)」、「陸の豊かさを守ろう(目標15)」といった目標にも寄与している。単なる頒布会ではなく「学ぶ」「知る」の機会を提供していることが評価され(公財)日本家庭園芸普及協会会長賞に選ばれました。

■取組みの概要

近年、植物がもたらす「癒し効果」や「ストレス軽減効果」への関心が高まっています。当社も、レンタルグリーンや植物販売を通じて、日々その力を実感してきました。これまで、福岡市職員の方や市民の皆様を対象に、グリーンやお花に親しむワークショップを継続的に開催してきましたが、このたび、福岡市で初開催となった「福岡フラワーショー2025」において、行政・企業・市民が一体となり、緑のある社会づくりを目指す目的で【学び】が主体のワークショップを開催しました。今回のワークショップでは取り組みやすく、多くの方に関心を持っていただきやすい「花(パンジー・ビオラ)」をきっかけとし、観葉植物を含む「グリーン」にも興味を広げていただく仕組みづくりを意識して実施しています。花を通じて植物への親近感を高め、さらに日常生活に緑を取り入れるライフスタイルへの誘導を図ることを目指しました。

福岡市と連携し、公共性と信頼性の高いイベント設計を行いました。市民参加型無料ワークショップとして植物を「学ぶ」体験、「知る」機会を提供し、「市民が主体となって植物とふれあい、育てるきっかけをつくる」ことを目的に据え、全体を設計しました。

- ① 育成展示・今回は実際に時間をかけて育成した「個人育種家 パンジー・ビオラ」を70鉢程度展示し、それぞれの特徴を説明。実際の花や形を鑑賞するだけでなく、育種家方の思い、作出秘話などストーリーを深く知ってもらおう試みとして実施。
- ② 参加型体験・コンセプトを【自分のお気に入りの一品が見つかる!】とし、パンジー・ビオラ特有の花色や形状の多様性を体感してもらいました。参加者には展示鉢の中から「推しの一鉢」を選んで投票していただく形式とし、参加型の体験を通じて植物への興味・関心を高める工夫を凝らしました。



具体的活動内容

今回、パンジー・ビオラの展示会においては、以下の取り組みを行いました。まず、全国的に著名な育種家の方を往訪し、育成における苦労、目指す理想像、育成の喜びなどについて、直接お話を伺いました。その内容を基に、来場者に対する説明の順番や伝えるべきポイントを整理し、より理解を深めてもらえるよう構成を行いました。

鉢花の育成にあたって、展示の約4か月前から生育を開始し、開花時期の調整や株のボリュームアップを図りました。育成管理において、花の発色や株の健全性を最大限引き出すために、保水性と通気性に優れた専用培養土を使用し、段階的に肥料設計を見直しながら施肥しました(基肥・追肥ともに緩効性肥料を中心に適切な量とタイミングを管理)。使用した肥料や土の種類、管理方法などは、育成の不安の解消に繋がるよう実際のワークショップで説明しました。また、それぞれの育種家の方の作出したオリジナル資料を配布。来場者が「来てよかった」と感じていただけるよう注力しました。その他、育てやすいアイテムとしてグリーンを紹介し、興味をもっていただきました。んで投票していただく形式とし、参加型の体験を通じて植物への興味・関心を高める工夫を凝らしました。



【取組の波及効果】

グリーンメイツとして働いていただいている方には、趣味の延長として捉えている60代の女性、専業主婦で仕事から離れていたが、生活が落ち着いて新しいことを始めてみたという50代の女性、また、これまでの技術系の仕事を定年退職し、堅い業務からは異なることに挑戦してみたかったという60代の男性もいて、皆意欲的に取り組まれています。みどりと触れ合うことに楽しさを感じ、それを仕事として取り組むことで、生きがいと仕事を両立させた新しいライフワークを実現しています。

「一鉢の喜びが、緑豊かな未来を育てる」——これが、私たちの挑戦の第一歩です。



(一社)日本インドア・グリーン協会理事長賞

おうち植物園PJ

手づくり建築工作舎

■受賞理由

UR都市機構主催のまちとくらしのトライアルコンペにて選定され実施した、団地住戸の緑化推進のための一連の取り組みである。観葉植物を家に置きたいというニーズは依然高いものの、その種類の多さから、初心者が自力で樹種を選定して購入に踏み切るにはハードルが高いと感じていた。そこで購入のきっかけとなるように、植物と光環境の関係を色によって直感的に判別できるデザインを考案し、様々な企画を通じて認知を広げている。個々の植物に必要な光の量を、植木鉢の色で直感的に判別できるデザインとしています。また団地内の典型的な住戸プランに対して光環境解析を実施し、植木鉢の色とリンクさせ、自宅の植物を置きたい場所を想定することで、植木鉢の色を頼りに好みの植物を選定することができ試みである。マンション内部の光環境提示と生育できる植物を鉢の色で示しており、(一社)日本インドア・グリーン協会理事長賞に選ばれました。

■取組みの概要

独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)主催のまちとくらしのトライアルコンペにて選定され実施した、団地住戸の緑化推進のための一連の取り組みです。観葉植物を家に置きたいというニーズは依然高いものの、その種類の多さから、初心者が自力で樹種を選定して購入に踏み切るにはハードルが高いと感じていました。そこで購入のきっかけとなるように、植物と光環境の関係を色によって直感的に判別できるデザインを考案し、様々な企画を通じて認知を広げています。これまで難しかった団地専有部内の環境改善に、緑を通じてアプローチする試みです。

緑化技研/藤田氏がまとめてこられた植物の耐陰性に関する研究をベースに、個々の植物に必要な光の量を、植木鉢の色で直感的に判別できるデザインとしています。また団地内の典型的な住戸プランに対して光環境解析を実施し、植木鉢の色とリンクした結果画像を作成しました。利用者は自宅の植物を置きたい場所を想定することで、植木鉢の色を頼りに好みの植物を選定することができます。



具体的活動内容

上記のシステムを基幹に、1年をかけて様々な企画を行いながら認知を広げてきました。

- ① 併設のミュージアムへの100種類超の植物の展示
- ② 植木鉢塗装と植物植え付けWSの実施による企画のPRとコミュニケーションの実施
- ③ 同ミュージアムの保有する保存棟(文化財登録)の一室に緑化モデルルームを整備
特にモデルルームについては、通常の植物販売店舗と異なり、住環境の中で緑を見ることで、その効果やサイズ感、置きたいエリアに適した植物を知ることができる等、大きな反響を頂きました。



【取組の波及効果】

2025年度はこれまでの活動で得た住民の声を反映し、現地販売会を年4回実施予定です。販売方法についても大田市場から直送にて仕入れを行い、売れ残りはミュージアムエントランスにて展示することで、常に樹種を入れ替えながら限界を緑化できる方式としました。

先日実施した第1回の販売会では、初回にも関わらず200人以上に来場頂き、50組以上にご購入頂きました。今後は販売と合わせて住戸内で緑視率10%を達成できる緑の配置の検証や、効果的な屋内緑化の方法をセミナー形式で広めるなど、より具体的に住環境改善の取組を実施予定です。

【その他(今後の展望)】

本システムは団地に限らず、戸建てや集合住宅、オフィス、商業施設など、様々な場所で実施可能な汎用性を持っています。カラフルな色の植木鉢と共に植物を展示することで場所の賑わい創出ができると共に、訪れた方々に少しずつ個々の植物に対する認知を広げることが可能です。昨今の群としての都市緑化からはなかなか得られない、自宅に植物を招くきっかけとなる試みとして、取り組みの輪を広げたいと考えています。



現地販売会全景 / モデルルームを歩き来しながら植物を選べる



当日の様子 / テーブルの色でコミュニケーションを取りながら販売

(一社)屋内緑化推進協議会奨励賞

森とつながる ワークプレイスR&D拠点

株式会社パーク・コーポレーション parkERs
中央日本土地建物株式会社

■受賞理由

目指す「新しいワークプレイス」および「オフィスの付加価値向上に資する空間」を開発するためのR&D拠点とした。自然豊かで五感に働きかける空間として、社員自ら利用しながらパフォーマンスを最大化するオフィスの在り方検証や、エンゲージメント向上に資するサービス・コンテンツ等の効果検証を行っている。この空間を通じて、利用者が森林や自然とつながるきっかけをつくり、環境配慮やサステナビリティに対する意識を高め、そこから生まれる交流の促進を図っている。社員向けワークショップを1年以上継続して定期開催しており、テナントにも参加枠を開放することで、会社を超えたコミュニケーションが育まれるイベントに進化している。同社保有林の素材を使用したり、同社が出展するイベントの関連資材をリユースした等、環境意識を醸成する内容になっている。

ワークショップを社内だけでなくテナントも巻き込んで開催しており、屋内緑化推進協議会奨励賞に選ばれました。

■取組みの概要

東京都千代田区霞が関に本社を構える、中央日本土地建物株式会社が目指す「新しいワークプレイス」および「オフィスの付加価値向上に資する空間」を開発するためのR&D拠点「NAKANIWA」。自然豊かで五感に働きかける空間とし、社員自ら利用しながら、パフォーマンスを最大化するオフィスの在り方検証や、エンゲージメント向上に資するサービス・コンテンツ等の効果検証を行います。

山梨県南都留郡山中湖村と神奈川県平塚市にある同社保有林を彷彿とさせる空間をデザインしており、現在も植栽のメンテナンスやワークショップイベントなどを定期的に行っています。

NAKANIWAはこの空間を通じて、利用者が森林や自然とつながるきっかけをつくり、環境配慮やサステナビリティに対する意識を高め、そこから生まれる交流の促進を図っています。

①事業活動や空間を生かしたワークショップの開催

中央日本土地建物株式会社の社員向けワークショップを1年以上継続して定期開催しており、毎回約20名が参加しています。同社保有林の素材を使用したり、同社が出展するイベントの関連資材をリユースしたりすることで、会社へのエンゲージメントを高めつつ環境意識を醸成する内容になっています。また、季節感を感じていただくために2024年9月以降はお月見装飾やクリスマス装飾などの空間装飾も同時に行っています。

実施した ワークショップ一例

- 2023年12月クリスマスリース作り ※保有林の素材を使用
- 2024年1月 和ハーブティー講座 ※空間にある植栽(和ハーブ)を紹介
- 2024年2月 大切な人へ贈るフラワーボックス作り ※保有林の素材を使用
- 2024年3月「NAKANIWAに花を咲かせよう」※チームでの空間装飾イベント
- 2024年3月 テラリウム作り ※保有林にある樹種の苗木を使用
- 2024年6月 アロマストーン作り ※同社出展イベント装飾の再利用
- 2024年6月 ドライボトル作り 同社出展イベント装飾の再利用
- 2024年9月 お月見フラワーアレンジメント ※お月見装飾も同時実施
- 2024年12月クリスマスリース作り ※保有林の素材を使用、クリスマス装飾も実施
- 2025年3月 苔テラリウム作り ※保有林をイメージした装飾も実施

②ワークショップの成果品を空間に常設する取り組み

開催して終わりではなく、人気のワークショップの成果品を常設する取り組みも行っています。参加者から特に好評だった和ハーブティー講座をきっかけに、オフィスの一角に和ハーブティーコーナーを新設。毎月植栽のメンテナンス時に異なる茶葉に交換し、いつでも季節の和ハーブティーを楽しめる仕組みを作りました。



ワークショップの具体的活動内容の一例

クリスマスリース作りでは保有林の松ぼっくりを使用。同社が所有する2つの保有林それぞれで植生が異なることから、大小様々な松ぼっくりを用意できました。「こんな大きな松ぼっくり見たことない!」「カラマツの松ぼっくりは小ぶりかわいいね」など、リース作りを通して自然と生物多様性を考えるきっかけとなりました。さらに、ワークショップ以外の場でも楽しめる松ぼっくりを使ったセルフオーナメント作りを同時開催することで、イベント時以外でも季節を感じ、自然に触れられる機会を創出しています。



【取組の波及効果】

2025年3月以降は同社ビルのテナント様にも参加枠を開放することで、会社を超えたコミュニケーションが育まれるイベントに進化しています。参加者からは「他社や社内他の他部署の方と交流できて良かったです」「植物に触ることでリフレッシュできました」というお声もいただきました。





LEDが拓く緑の革命

屋内ガーデニングで
家庭や職場を癒しの森に

屋内緑化推進協議会顧問：佐分利 応貴

現代社会の課題

- 労働者の7人に1人(14.9%)が「強いストレス」を感じている。(令和4年全衛連ストレスチェックサービス実施結果報告書)
- うつ病などの気分障害の患者数は推定100万人(厚労省)。自殺者年間2万人。
- 2025年5月の改正労働安全衛生法により3年以内に小規模事業者にもストレスチェックが義務化。

日本人の10代から30代までの
死因トップは自殺

年代	死因	割合
10代	自殺	18.5%
	交通事故	12.5%
	がん	11.5%
20代	自殺	15.5%
	交通事故	11.5%
	がん	10.5%
30代	自殺	12.5%
	交通事故	10.5%
	がん	9.5%

出典:令和6年(2024)人口動態統計月報年計(概数)の概況

緑の効用のエビデンス(屋外)

- 緑地曝露はうつ病や不安障害の予防に有効
- Ltiu, Z. (2023) Green space exposure on depression and anxiety outcomes. NIH
- 森林浴は精神的身体的幸福感の促進に効果的
- Antonelli, M. et al. (2022) Effects of forest bathing (shinrin-yoku) on individual well-being: an umbrella review. International Journal of Environmental Health Research. April 2021 32(8):1-26
- 154件のメタアナリシスの分析の結果

- 1) 緑地と心血管疾患による死亡率の関連性は強い(心血管疾患による死亡リスクが4%低下)
- 2) 緑地のある地域に住む人は健康状態が良好である確率が12%高く、早産の確率が13%、2型糖尿病の有病率が28%低い。緑地の割合が10%増加するとうつ病の確率が4%低下。

-Xie, Y. et al. (2024) Credibility of the evidence on green space and human health: an overview of meta-analyses using evidence grading approaches. eBioMedicine.

緑の効用のエビデンス(屋内)

- 屋内植物は血圧と学業成績に有益な効果あり。

-Han, K. et al. (2023) Effects of Indoor Plants on Human Functions: A Systematic Review with Meta-Analyses. NIH
 -Shibata, S. et al. (2024) Visual properties and perceived restorativeness in green offices: a photographic evaluation of office environments with various degrees of greening. Frontiers in Psychology

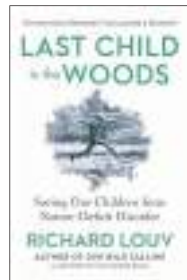
メタアナリシスとは

- 研究成果は単にアンケートを取るだけでは治療に関するエビデンスレベル



現代人の「自然欠乏障害」

現代人が自然と触れ合う機会を失ったことにより、心身に様々な悪影響が現れる状態。



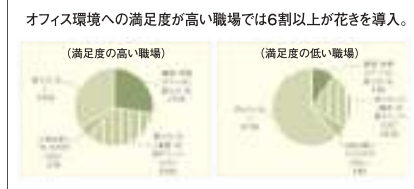
※アメリカの作家・活動家のリチャード・ループ(Richard Louv)が2005年の著書「Last Child in the Woods」で提唱した概念。

緑に効用はあるのに ……

- コルチゾール(ストレスホルモン)を減らす
- 血圧や心拍数の安定化
- 認知機能の向上(特に注意力)
- 子どもの情緒的発達の促進
- 創造性の向上… など

しかし、オフィスで緑を机に飾っている人は5%(令和2年度農水省調査)

※ ただし職場には45%が「あり」と回答。



LED技術の革新

- 10年前(2013年頃)のLEDは、赤色(660nm)と青色(450nm)が主流で、光合成に必要な波長を部分的にカバーするのみ。
- 現在は、紫外線(UV)や遠赤外線(FR)を含む多波長対応が進み、植物の成長段階(発芽・開花・結実)に応じた「フルスペクトルLED」が普及。
- 10年前は5万円だった家庭用小型キットが現在は1万円程度に。特許出願件数も10年前の倍以上に。2029年には園芸用照明は世界で200億ドル(3兆円規模:年間18%成長)の市場となるとの予測も。

植物ランプの照射時間



お部屋で完結!

LEDによる植物栽培を始めませんか



目当たりの確保って結構難しいですよ…



※ 立命館大学 マルチメディア集積回路システム研究室(熊本研究室)での実験結果

屋内ガーデニングの絶大なメリット

- 全天候型(暑い夏も問題ない)
- 害虫・農薬フリー
- 子どもも高齢者も誰でも簡単にできる
- スペースがなければ垂直栽培も可能
- 光熱費は意外と安い(月1,000円前後)
- 収穫までの期間短縮が可能

高齢者施設への導入

- ボストン大学公衆衛生大学院のマーシャ・ベスカドール・ヒメネス助教授らのチームの研究

周りに緑地の多い場所に住んでいる人ほど、大気汚染にさらされにくく、うつ病になるリスクは低く、身体活動の機会が増える傾向にあることが判明した。こうした傾向は認知機能の向上をもたらす可能性がある。研究チームはうつ病について「認知症の発症リスクに関連する重要な要素であることが実証されている」とも言及。

[住宅地の緑、認知症予防に効果]

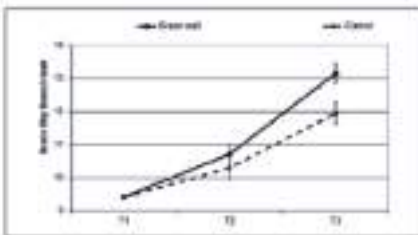


教育現場でも

- スウェーデンの小学校ではグリーンウォールの導入実験を実施(グローニンゲン大学の研究論文)

↓グリーンウォールが子どもの認知機能を支援し、教室をより魅力的な空間にすることができることを示した初めてのものです。

子どもたちが幼少期の大部分を学校で過ごしていることを考えると、これは重要な発見です。私たちは、この結果が学校におけるグリーンウォールの導入を優先させるために活用されることを期待しています。



出典: Agnes, E. et al. (2017) Green Walls for a Restorative Classroom Environment



イノベーションとは

イノベーション = 発明 × 普及
(Innovation) (Invention) (Diffusion)

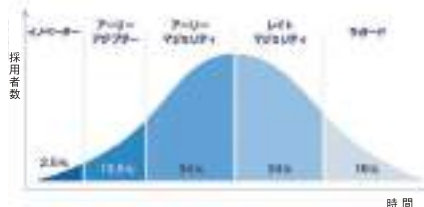
あたらしい
あたりまえ



花き業界の偉大なイノベーション事例



イノベーションの普及



屋内ガーデニングで
家庭や職場を癒しの森に
一緒がんばりましょう!

御質問等は

saburimasataka@gmail.com まで

イノベーションのストライクゾーン

市場の求めるQCD



室内で開花するミニバラ



日光要らず! 室内でもバラが元気に育つ



屋内ガーデニングで家庭や職場を癒しの森に



開催意義

花や緑との関わりを通じ、自然と共生した持続可能で幸福感が深まる社会の創造を提案、横浜から明日に向けた友好と平和のメッセージを発信します。



観葉植物の光に対する順化*レベルを数値化する ～光合成と葉緑素量を用いて～

京都工芸繊維大学 応用生物学系 半場祐子 hanba@kit.ac.jp

【 順化(じゅんか)* 植物がそだった環境に応じて葉の形や光合成の仕組みなどを変えること 】



植物の光順化レベルを数値化する 方法の提案

1. 植物の光順化のしくみ
2. 観葉植物の光順化レベルをどのように数値化するか
～観葉植物の光合成の特徴をふまえて～

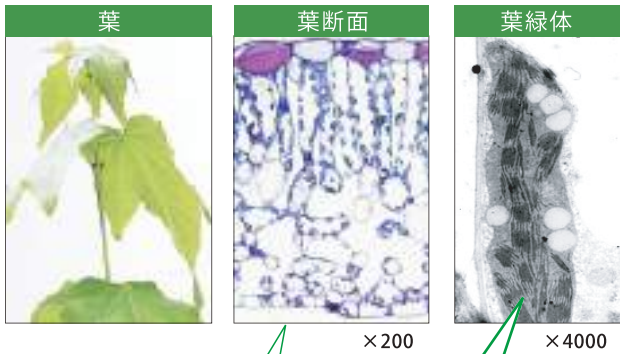


<https://cotoha-plants.com/SHOP/>

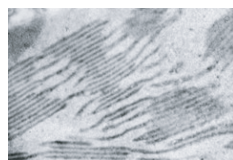


植物の光合成はどこで行われるか

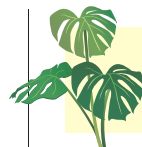
- 光合成は葉緑体で行なわれる



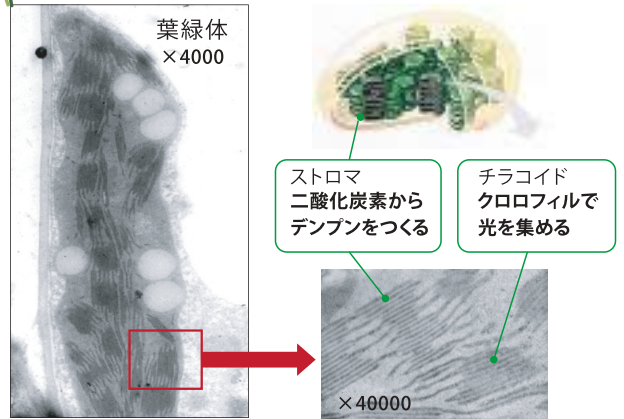
1つの細胞あたり
1～200個の葉緑体



×40000

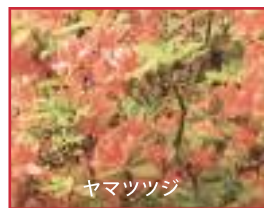
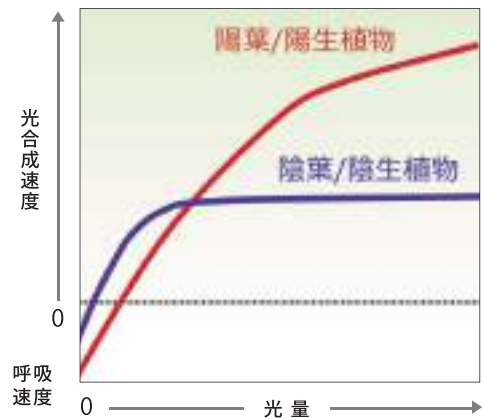


葉緑体では光を集めて二酸化炭素を デンプンに変える



植物の光順化のしくみ

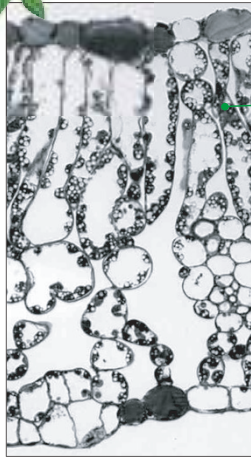
- 育った光の強さに応じて葉の形や光合成の仕組みが変わる
- 弱い光で育つ植物は日陰でも耐えられる「耐陰性」がある



トベラ
呼吸 陽葉(上) 陰葉(下)

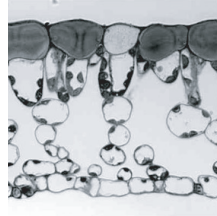


暗い場所で生育した葉の特徴



葉緑体

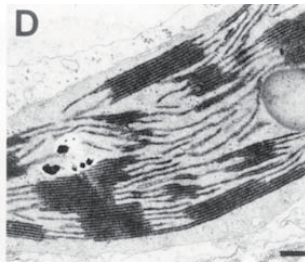
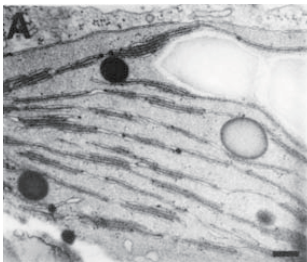
Hanba et al. 2002



陽葉

陰葉

ヤドリフカノキ



Lambers et al. (2008)

陰葉は…

クロロフィル(葉緑素)：多



光を集める能力：高



葉面積：大

クロロフィルが多くても光合成速度は高くない

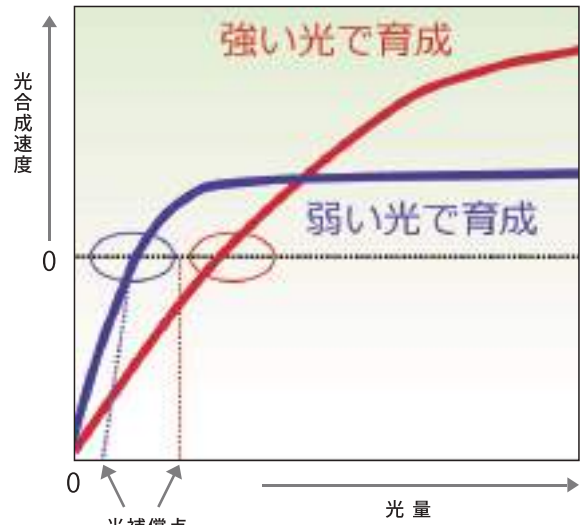


<https://www.verdeandsol.com/products/dwarf-variegated-umbrellaplant-schefflera-arboricola>



光順化のレベルと光合成

● 光補償点で光順化のレベルを数値化できる



光合成速度が0になる光量：光補償点

強い光に順化した植物ほど 光補償点が高い

観葉植物の光順化レベルをどのように数値化するか

～観葉植物の光合成の特徴をふまえて～



光順化のレベルと光合成

● フィカス属4種の観葉植物で光合成の光順化を調査



アルテシマ

ウンベラータ

ベンガレンシス

ルビー



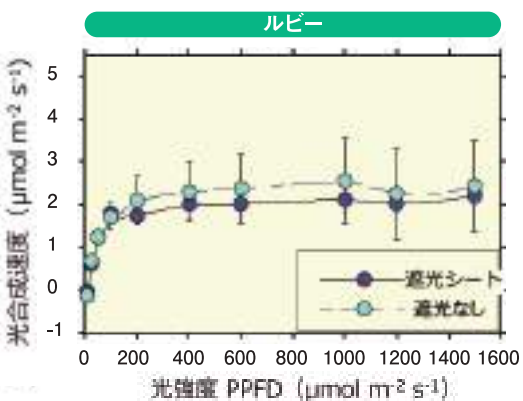
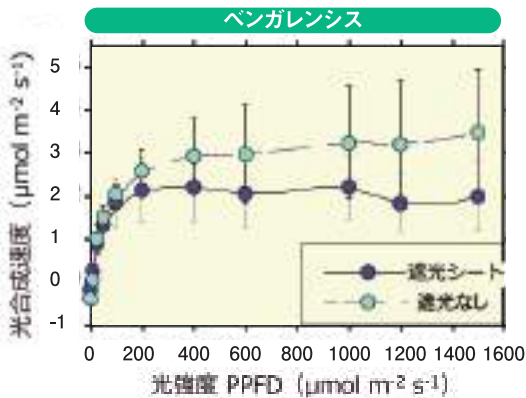
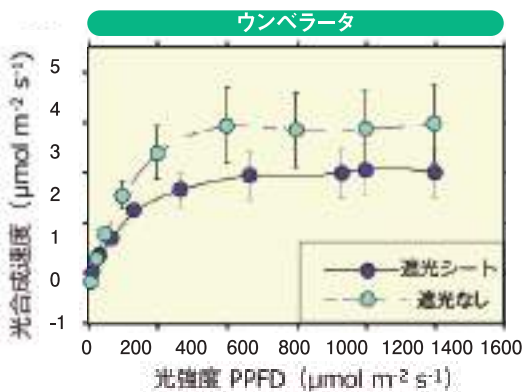
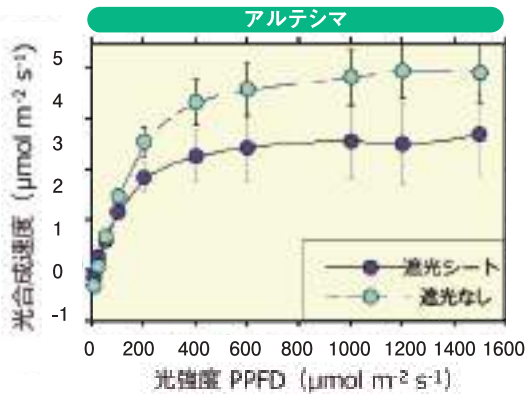
京都工芸繊維大学での光合成測定のようす Li-6400XT (アメリカ・ライカ社)を使用

cotoha谷奥様との共同研究



光のレベルと観葉植物の光合成①

- フィカス属4種：遮光なしと1/5の遮光シートで育成したものを比較



- 遮光シートありの方が光合成速度が低い
- 種によって遮光の有無の差が大きいもの、小さいものがある

cotoha谷奥様との共同研究



光のレベルと観葉植物の光合成②

- 1/5の遮光シートで育成した方が光補償点が低い=>観葉植物でも光順化レベルを光補償点で数値化できる

植物の種類	光条件	光補償点 $\mu\text{mol m}^{-2} \text{s}^{-1}$	光補償点の差
アルテシマ	遮光シート	15.8 (6.6)	6.3
	遮光なし	22.1 (3.2)	
ウンベラータ	遮光シート	8.3 (1.5)	5.9
	遮光なし	14.2 (3.3)	
ベンガレンシス	遮光シート	2.8 (0.5)	6.8
	遮光なし	9.6 (4.4)	
ルビー	遮光シート	9.4 (0.5)	3.8 差が小さい
	遮光なし	13.2 (2.1)	

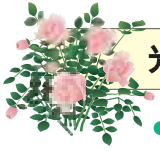


光補償点による光順化レベル数値化の問題点

- 光補償点は専用の光合成測定装置で測定する必要がある
- 光合成測定装置は非常に高価(1000万円~2000万円)
- 測定にはスキルが必要
- 測定値が環境に大きく影響される



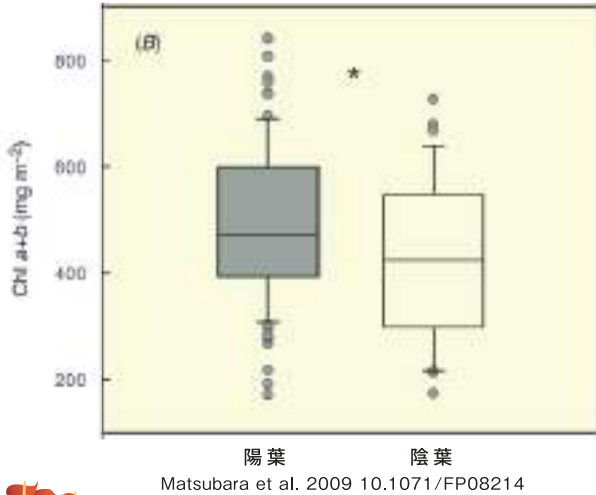
世界標準機器として利用されている
光合成測定装置Li-6400XT
後継機種Li-6800は2000万円



光補償点に代わる方法:クロロフィル量

- 弱い光に順化した植物は光を多く集める必要がある:クロロフィル量が多い
- クロロフィル量と光補償点との関係を使って光順化レベルの数値化ができる可能性がある

パナマに分布する86種の植物の陽葉と陰葉のクロロフィル量



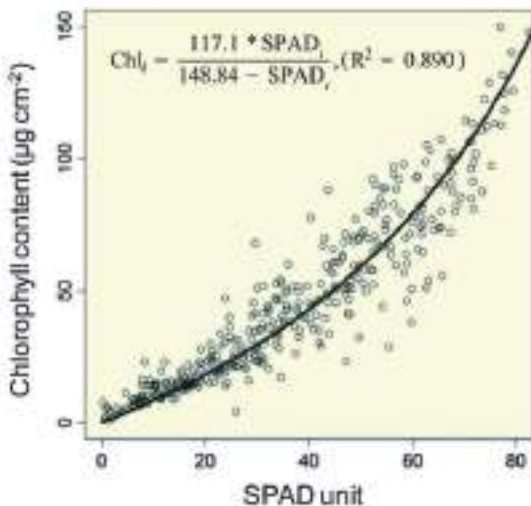
クロロフィル量の測定方法

- クロロフィル(葉緑素)の量はSPADメーターで測定できる
- 葉を挟むだけで数秒で測定終了

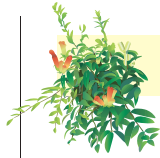
コニカミノルタ社から発売されている葉緑素計 (SPADメーター):15万円



https://www.konicaminolta.jp/instruments/products/color_chlorophyll/spad502plus/

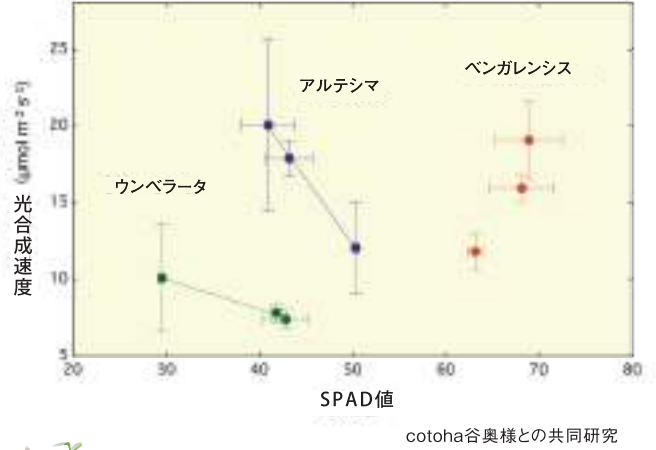


https://www.afsjournal.org/articles/forest/full_html/2010/06/f09346/F1.html



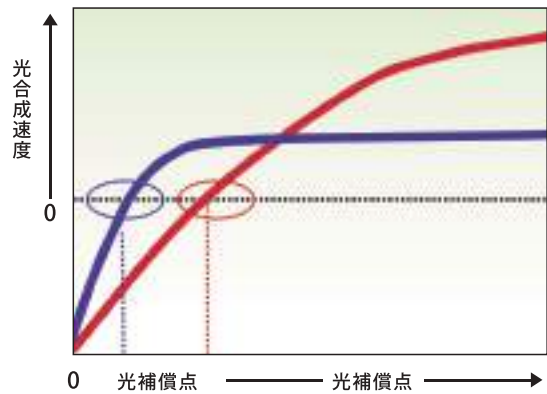
クロロフィル量と光補償点の関係

- 20000ルクス、5000ルクス、500ルクスの明るさで育成した観葉植物:2種でクロロフィル量が多いほど光補償点が低い
- クロロフィル量 (SPAD値) から光順化レベルの数値化ができる可能性がある



今後の課題

- クロロフィル量と光補償点との関係が種によって違う⇒いろいろな種の観葉植物で関係を求める必要がある
- 斑入りの植物では光補償点やクロロフィル量測定が難しい⇒葉のどの部位で測定すれば良いか、方法を確立する必要がある
- どのような光補償点をもつ観葉植物の価値が高いか、価値付けをする必要がある



観葉植物はあまり生育しすぎないのが望ましい:観葉植物を設置する場所に近い光量=光補償点が良い?



インドアガーデニングと植物の健康価値

全国屋内緑花需要開拓推進協議会



講演する飯島健太郎講師

植物の消費低迷と生産の失速…そんな言葉がささやかれているが、園芸業界のこれからの時代を行く抜くために、猛暑期間が長くなった現在、屋内で太陽に代わるLED照明の利用により多彩な植物を楽しむ「インドアガーデニング」のブームを起こすために「インドアガーデニングと植物の健康価値」と題したセミナーが開催され、155名が参加した。

2月9日、東京のエッサム神田2号館会議室とZOOMによるオンライン参加の併用で行われ、生産者から流通、メーカー、屋内緑化や都市緑化、住宅、学識関係者まで緑花に関わるいろんな業種が参加し、屋内緑花への関心の高さを示した。主催は全国屋内緑花需要開拓推進協議会（前田悟会長）で、ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業の一環として行われたもの。講演会とともに同時期に開催された世界らん展の会場でLED照明を使った展示も行われた。

テーマと講師は右の通り。

（理事 山川正浩）

① 植物及び園芸作業はいかに健康価値が高いか ～オフィスワーカー、図書館利用者、高齢者の事例より～

● 豊田 正博 兵庫県立大学客員教授

② バイオフィリックデザインの導入による 経済価値とその海外事例

● 松本 博 豊橋技術科学大学名誉教授

③ LED照明を用いた光環境整備による 緑化計画とその事例

● 伊藤 則昭 (株)グローバル特殊緑化推進室長

④ LED照明の基礎・照明計画、利用の仕方

● 藤田 茂 (一社)屋内緑化推進協議会副会長

⑤ 屋内のLED照明利用によるインドアガーデニング

● 大林 修一 (一社)日本インドア・グリーン協会理事長

⑥ 未来社会のグリーンインフラの実装に向けて／ 「都市緑地」から「インドア・グリーン」まで

● 飯島 健太郎 東京都市大学環境学部長教授

中国・広州 観葉植物等産地視察 並びに屋内緑化資材調査 報告書



概要

一般社団法人屋内緑化推進協議会は、11月9日から12日にかけて、中国広州市および佛山市において観葉植物の生産販売実態および関連資材の調査を実施した。会員を中心に、生産者、資材メーカー、施工設計関連企業など計14名が参加した。

視察日程および内容

【11月9日】

広州白雲国際空港にて現地集合。その後、佛山市へ移動し、オリエンテーションを兼ねた夕食会（結団式）を実施した。

【11月10日】

① G-Home吉広園芸（広東省佛山市）

スポンジ苗の生産圃場とECサイト関連の実態を視察した。中国では新型コロナウイルス流行以降、物流網が安価かつ高度に整備されており、日用品や生鮮食品に至るまでネット発注が定着している実態を確認した。出荷作業現場では、荷造りから箱詰めまでがチーム責任の出来高制（ピース単価請負）で効率的に行われていた。



② 宏浩生態園

ブラックピートを加工した新しい固形培地（パフカル類似品）を使用した栽培現場を視察した。圃場にてエストニア産ピートモス、水、発泡液を混合し、植物用コンポストとして使用している。数分で固形化する様子は非常に興味深いものであった。その他、キンカン等の栽培も行われている。



③ 広東数字・易摆網

廃培地を粉碎・加工し、再利用する工程を視察した。

④ 摩登森林陽台花園造景・設計

屋内モデル庭園のショールームを見学。その後、広州の園芸市場を視察し、販売されている植物の流通実態やトレンドを調査した。



総括 今回の視察では、観葉植物生産におけるコスト競争力、新素材培地による栽培技術、清潔さを保つ固形培地（パフカル類似品）の性能など、多くの知見を得ることができた。これらの新技術を導入・確立し、LED照明技術と組

み合わせることで、日本版の屋内緑化システムを完成させ、新たな室内園芸・ガーデニングの市場を切り開く可能性を強く感じた。今回の視察を機に、今後ますます中国側との連携を密にし、屋内緑化の発展のため良好な

【11月11日】

① ウレタン培地栽培農場

広大な農場でパキラが生産されている様子を視察。苗の掘り上げ調整から育成、製品化、出荷までの工程を確認した。



② 中国共産党花都区花山镇和郁村総支部委員会（和郁村党群服務中心）

同センターを表敬訪問し、今後の生産地化構想等について説明を受けた。広州地域における園芸全般の拠点を目指しており、屋内緑化植物の供給基地として、互いにパートナーシップを強化していきたい旨の要望があった。



③ 佛山市順德區陳村鎮綠科塑料厂（プラスチックメーカー）

大型プラスチック成型機を持つ工場を訪問。壁面緑化用成型品をはじめとする商材について商談を行った。



【11月12日】

広州園林博覧会

組織委員会の案内により視察を行った。アジサイ、インパチェンス、ノボタンなど、暑さに強い植物を用いた広州の気候ならではの素晴らしい植栽展示を鑑賞した。気候変動が進む日本において、夏越しや猛暑対策を考える上で大変参考になる事例であった。帰国前の限られた時間であったが、カートでのVIP待遇による案内をいただき、組織委員会に深く感謝申し上げる。



関係を築き上げていきたい。最後に、今回の研修に格別なるご配慮をいただいた陳社長をはじめ、関係各位に心より感謝申し上げます。参加された会員皆様におかれては、これを機に更なる商品・技術開発が進むことを期待する。

以上



GREEN SUMMIT 2025

日時 2025年12月1日(月)18:00～

会場 青山フラワーマーケット グリーンハウス
〒107-0062 東京都港区南青山5-4-41 グラッセリア青山1階

テーマ 「グリーン業界のトレンドを知る」
モデレーターと植栽業界の次世代を支えるパネラーを交え、
テーマに即した植栽業界の「現在の流行」について意見交換を行います。

内容 17:30 受付開始
18:00 セミナー開始
19:40 セミナー終了
19:45 懇親会開始(立食ビュッフェ)
21:00 終了

参加費 セミナー参加 ¥5,000 (フリードリンク付)
懇親会参加 ¥2,000 (立食ビュッフェ付)
当日は現金でお支払いください。

定員 先着30名

問合せ 玉木理事(080-3022-1556) 辻永理事(070-2165-0889)
seminar@okunairyokka.jp

申込 下記のフォームへ入力の上、送信ください。
<https://forms.gle/K4SWmi3hmviXsSmW8>

申込期限 2025年11月24日(月)まで

【セミナー1部】

■最新トレンドの共有_高輪ゲートウェイ「ニューマン高輪」
18:00～ パネラー FUGA TOKYO 株式会社

【セミナー2部】

■パネルディスカッション_テーマ「若手座談会」
18:40～ 講師 株式会社グリーン・ワイズ
株式会社ユニバーサル園芸社
株式会社パーク・コーポレーション parkERs



大阪駅前に密集する園芸ショップと国内最高級レベルのグリーンインテリアを学ぶ



● Blossom Bgreen店舗正面

● 視察研修に参加した皆さん、日坂店長とともに(Blossom Bgreenにて)

● Blossom Bgreen店内

一般社団法人屋内緑化推進協議会は、2026年3月10日、緑の提案を主にしたホームユースを中心に展開している、関西地区における先進店舗を視察し、屋内緑化の新たな可能性とライフスタイル提案について学ぶ勉強会を開催した。

再開が進んだJR大阪駅周辺では、徒歩約10分圏内に、グリーンインテリアのショップが何店舗も密集している。大阪駅KITTE大阪3階では「植物と暮らす」をテーマに東京、愛知など駅前で大型店を展開するガレージが、都会的でありながら温かみのあるインドアグリーン、ファッションなどを展開する「garage OSAKA」を出展し、若い女性スタッフが出迎えていた。

同じフロアには、関西の老舗盆栽園・養庄園が商業施設に「YOUZYUEN」を初出店、200万円の盆栽から初心者でもとり入れやすい多肉植物、サボテン、テラリウム、観葉植物を販売するとともに、「はじめての盆栽体験教室」も人気を博している。

グラングリーン大阪には、コーナン商事が運営する「gardens umekita(ガーデンズうめきた)」があり、一般的な観葉植物だけでなく、希少な塊根植物(コーデックス)や珍奇植物、盆栽なども豊富に駅前ショップとしては圧倒的な植物を揃えている。特にアクアリウムコーナーは充実し大阪市内最大級を誇り、熱帯魚、水草も充実している。ガーデンズうめきたの隣にはソルソファームで知られるDAISHI-

ZENが手掛ける「KEEPGREEN OSAKA」があり、ガーデンズうめきたとはコンセプトを変えたスタイリッシュな観葉植物を販売している。

隣接するグランフロントではインテリア・家具のACTUS梅田店があり、1年前に視察した時には家具売り場の装飾としてインテリグリーンを提案していたが、今ではメインのインテリア商品の1つとしてしっかりとグリーンコーナーを作っていた。

阪急うめきた百貨店では、「百貨店の中に公園を作る」をコンセプトに、水槽で知られるアクアグリーンアマノが運営するGreenAgeを展開し、アクアリウムを提案している。



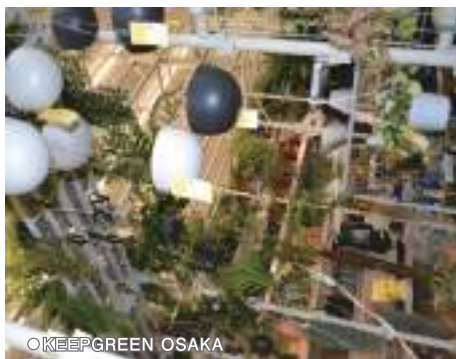
● YOUZYUEN



● gardens umekita



● garage OSAKA



● KEEPGREEN OSAKA



● ACTUS梅田店



● GreenAge



屋内緑化推進協議会 中部地区勉強会

「植物と健康」

植物の効用や 園芸療法を学ぶ



兵庫県立大学緑環境景観
マネジメント研究科 客員教授
豊田 正博 さん



(一財)沖縄美ら島財団総合研究所
研究顧問
花城 良廣 さん

(一社)屋内緑化推進協議会は、3月31日に緑とせせらぎcafé喜楽(名古屋市中区)で中部地区勉強会「植物と健康」を開催した。

勉強会では、(一財)沖縄美ら島財団総合研究所研究顧問の花城良廣さん、兵庫県立大学緑環境景観マネジメント研究科客員教授の豊田正博さんによる講話と、講話をふまえた参加者全員でのディスカッションが行われた。

最初に登壇した花城さんは、2月に開館40周年を迎えた海洋博公園 熱帯ドリームセンターに建設時から携わり、長年アジア各地の植物調査を続けてきた。講話では、「健康に有益な植物について」を題材に、植物の空気清浄作用や精油・香りの効果、園芸作業によって生じる心身の反応について説明した。『おもろさうし』(沖縄最古の歌謡集)に登場するテシヤクネンボ、長命草の名で古くから伝えられているボタンボウフなどの資源植物も紹介された。これまで民間レベルで使われていた植物に上手くスポットライトを当てれば、新たなビジネスにつながるのではないかと考えさせられる内容だった。



次に、豊田さんが「園芸療法はいかに健康によいのか・園芸療法の視点より」について話した。メンタルヘルスなどの理由で従業員1人が6カ月間休職した場合の年間コストは422万円と試算(企業が仕事と生活の調和に取り組むメリット:内閣府)されている。休職に至らずとも心身が不調のまま勤務すれば、集中力低下や判断ミスの増加により企業パフォーマンスは低下すると考えられる。「植物導入はコストではなく、こうした損失を防ぐための投資である」と伝えていくことが、オフィスなどでの植物利用につながるはずだ。



従業員のメンタルケアの手法として紹介されたのが「ネイチャーブレイク(疲労を感じたときに気に入った植物を見て精神的疲労を回復させる休憩法)」である。工作中、3分間の休憩を取って脈拍が顕著の下がった人の割合は、植物なし(4・8%)に比べて植物あり(27%)の方が高く、その効果が見える。

ディスカッションでは、「園芸療法やガーデンセラピーがなかなか広がらないのはなぜか」という参加者からの問いがあり、資格制度があっても資格者が働く場が少ないことや収益化の難しさが課題として挙げられた。

農福連携等推進会議の農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)では、世代や障害の有無を超えた多様な者が農業体験を通じて社会参画を図る「ユニバーサル農園」の普及・拡大が新たなアクションの1つとされており、豊田さんは「ユニバーサル農園の枠組みの中で園芸療法活動などに取り組めば、補助金など資金の確保もしやすいのではないか」と語った。(田中)



● 休憩時には屋上緑化を見学。
株プランネットのみどりスタックを利用しており、ソーラー電源で水の循環をしている